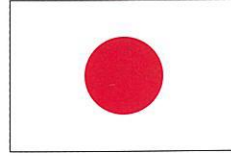


# 久喜市・ローズバーグ協会だより

発行 久喜市・ローズバーグ協会

発行日 2021年5月1日



ご挨拶

久喜市・ローズバーグ協会 会長 平澤 香

久喜市そしてローズバーグ市の皆さん、こんにちは。

世界は新型コロナウイルス感染症の関係で困難な状況にあります。お陰様で両市の絆はメッセージ等の交換を通して、更に深まっているところです。1993年以来続いてきた人の交流は中止となりましたが、協会ではこのような時期を、今までの活動を記録として整備し次の時代に繋げる好機と考えております。その成果の一部が今回の広報紙に掲載されているものです。希望的観測ではありますが、2022年には久喜市から一般市民の訪問団を派遣し、新たな交流のページを開こうと考えております。市民の皆様には、本協会の趣旨に御賛同いただき、引き続き御支援いただくとともに、活動に御参加くださいますようお願い申し上げます。



姉妹都市提携10周年記念紙表紙より



# Thank you again!

## ローズバーク森林火災へのお見舞いに感謝します

2020年8月、カリフォルニア州で発生した森林火災がオレゴン州・ワシントン州にまで広がり、甚大な被害が出ているというニュースは日本でも連日報道されました。姉妹都市であるローズバーク市は *Timber Capital of the Nation* (国の製材の首都) と言われるほど森林の多いところ。ローズバークの皆様はどうしていらっしゃるか、会長よりお見舞いの文を差し上げましたところ、次のお礼のメッセージをいただきました。

山火事が猛威を振るう中、森林および家屋にまで被害が広がっております。私たちのことを心配してくださいましたこと、ローズバーク姉妹都市協会を代表して御礼申し上げます。ローズバーク市の中心部にいる私たちは、今のところ、火災からは免れていますが、大気汚染・空気質指数は、500(今朝)を上回っております。その結果、有害で重い煙雲の層がローズバークとその周辺地域に生じ視界が悪くなっております。この状態は今週も続くと思われています。

重苦しい煙のために上空からの消火活動は危険を伴い難しくなっています。したがって地上からの消火活動に頼らざるを得ず、大勢の消防士たちは長時間労働し、地元の木材会社の従業員たちは重機を持ち出し、防火帯を作り、放水車も出動し延焼を食い止めようと必死の作業をしています。

幸いにも非常に協力的な地域体制が取られています。住居や牧場から非難した人々を支援するために、食料品、衣服、資金が集まり、仮設住宅が作られ、動物や家畜なども守ろうと人々が協力合っている姿は感動すら覚えます。昨夜の段階で、これまでに100軒以上の家屋が焼失されたことが確認されました。火災は非常に危険な状態で、避難勧告地域に入り込むことはできません。いまのところ、この地域の死者は確認されておりませんが、今後、状況が変わる可能性はあります。また、これまでに120,000エーカーが焼失しました。封じ込められた火災は全体の10%に過ぎず、完全に鎮火されるまでには、かなりの時間がかかるものと思われます。悲しいことに、以前、久喜市からの訪問団員がドライブした、北アムクワ川から滝やクレーターレイクまでの道路周辺、美しい森林地帯は破壊され、今後何年にもわたって景観は荒れ果ててしまうことになるでしょう。

私たちは引き続き、訪問団の受け入れを楽しみにしておりますが、今までとは違った体験をすることになると考えられます。繰り返しになりますが、久喜市の皆さまからの友情と思いやりを心より感謝申し上げます。

敬 具

ローズバーク姉妹都市協会 会長 ジャネット・ジョンストン

このメッセージは昨秋の菖蒲地区文化祭のローズバーク協会の展示コーナーに展示させていただきました。



ローズバーク山火事



クレーターレイク

## ビデオメッセージを送りました

今年度を振り返り、梅田久喜市長、平澤ローズバーク協会会長よりローズバークへビデオメッセージをお送りしました。平澤会長からのメッセージを紹介します。

ローズバークの皆さん、こんにちは。久喜市・ローズバーク協会会長の平澤香です。

1987年から始まったローズバーク市との中学生の交流は、34年が経過しました。この間、今回のような世界的な感染症が原因で、交流が途絶えたこともありました。両市の交流のスローガンである「友情と理解」のもと、常に危機を乗り越え、今日に至っております。

さらに、昨年8月中旬から発生した山火事は、ローズバーク市のあるオレゴン州やワシントン州にまで拡大し、各地で大きな被害が発生しました。被害に遭われた皆様には、心よりお見舞い申し上げます。しかしこの不幸な出来事も、メッセージの交換などを通して、姉妹都市である両市の絆は、更に深くなりました。

今現在、人の交流に制限はありますが、早い時期に、再び復活することを願ってやみません。ローズバーク市の皆さんの明るい笑顔に接する事が、一日も早く訪れることを、楽しみにしております。有り難うございました。

また、3月29日に行われた2020年度の運営委員会の冒頭、会議参加者のビデオメッセージを録画しました。日本語や英語で、一人一言、「皆さん、お元気ですか?」「私たちは皆元気ですよ。」「We are looking forward to see you」など、懐かしいローズバークの皆さんの顔を思い浮かべながら、カメラに向かって話しかけました。

ローズバークの皆さんに元気な様子を見ていただくと想像するだけで嬉しくなりました。



1995年  
姉妹都市友好記念碑



# ローズバーグ協会だより

ローズバーグ市との交流の歩み

アーカイブス

## ‘87(昭和62年)に始まったホームステイ交流 “友情と理解”は海を越えて永遠に

旧菖蒲町が1996年に発行した「国際交流10周年・SHOBU & ROSEBURG」の記念紙の見出しです。故遠藤淳二町長の挨拶文に続き、交流のきっかけ、姉妹都市の締結、しょうぶ・ローズバーグ協会の設立と交流の歩みがまとめられ、ローズバーグやオレゴン州の紹介もたくさん載せられています。



1993年 姉妹都市提携調印式

## 姉妹都市提携10周年記念植樹 ～大きく育て友情の木～

旧菖蒲町が、2003年に姉妹都市提携10周年となったことを記念して、しょうぶ・ローズバーグ協会の編集で発行した記念紙の見出しです。中山登司男元町長の挨拶文に続き、ローズバーグには桜を菖蒲にはマートルを植樹する様子・旧菖蒲庁舎に設置されたローズバーグコーナーなどが紹介されています。



2003年 あやめ公園に「マートル」を植樹

## 交流のあゆみ

- 1985年(昭和60年) 中学生同士の文通交流始まる
- 1987年 初めてローズバーグより中学生13名来日・ホームステイ
- 1988年 菖蒲中学校生徒が初めてローズバーグを訪問・ホームステイ  
(この後、中学生のホームステイ訪問、受け入れは一年ごとに交互に行われ、現在まで継続)
- 1993年(平成5年) しょうぶ・ローズバーグ協会設立(7.10)姉妹都市協定を締結(10.18)
- 1994年 一般市民の親善交流開始(2008年までの15年間、派遣と受け入れを毎年行う)
- 2003年 姉妹都市協定10周年記念、桜とマートルの木を交換して植樹  
姉妹都市提携10周年記念交流歌「未来を見つめて」作成

### ここまで、姉妹都市提携10周年記念紙より抜粋

- 2004年(平成16年) 姉妹都市提携10周年記念紙発行  
第11回訪問団派遣17名 団長 中山登司男町長(6.24~7.2)  
中学生のホームステイ交流 第9回派遣25名(7.29~8.7)  
第11回訪問団受入16名 団長 R.シプリー(10.20~10.28)
- 2005年(平成17年) 第12回訪問団派遣11名 団長 平澤卓会長(6.23~7.1)  
中学生のホームステイ交流 第10回受入25名(7.4~7.13)  
第12回訪問団受入17名 団長 J.パーピー(10.19~10.27)
- 2006年(平成18年) 第13回訪問団派遣14名 団長 佐藤勉副会長(6.15~6.23)  
中学生のホームステイ交流 第10回派遣23名(7.31~8.9)  
第13回訪問団受入13名 団長 N.アンドリッチ(10.18~10.26)
- 2007年(平成19年) 第14回訪問団派遣12名 団長 石崎由紀会長(6.14~6.22)  
中学生のホームステイ交流 第11回受入22名(7.6~7.15)  
第14回訪問団受入8名 団長 J.パーピー(10.17~10.25)
- 2008年(平成20年) 第15回訪問団派遣19名 団長 新井英之会長(6.19~6.27)  
中学生のホームステイ交流 第11回派遣  
第15回訪問団受入15名 団長 J.ジョンソン(10.17~10.25)
- 2009年(平成21年) 新型インフルエンザ流行のため、訪問団派遣と中学生の受け入れ、中止  
第16回訪問団受入12名 団長 J.パーピー(10.22~10.29)  
この年以降、一般市民の交流も訪問と受け入れが毎年交互となる
- 2010年(平成22年) 3月23日 4市町が合併し、新「久喜市」誕生  
第16回訪問団派遣6名 団長 新井英之会長(6.24~7.2)  
中学生のホームステイ交流 第12回受入23名(7.8~7.18)

今回は、2010年 新生「久喜市」誕生までの交流をまとめました。  
以降の交流は次号で紹介させていただきます。

## 皆さんの声

(会報紙掲載の感想等から抜粋・引用)

### 2005年訪問団(派遣)参加者の感想より

ホームステイと聞いて「出来ないわ、無理だわ」と思ってしまうか、「不安だけど行ってみよう、チャレンジしてみよう」では大きな違いです。私にとって今回のローズバーグ訪問は大きな一歩でした。言葉の壁はお互い様、心配はありません。少しでも関心のある方は参加してほしいです。

(T.Mさん)

5年ぶりの訪問にもかかわらず会えば心が通じ合い、涙の再会でした。いつも感じるのは彼らは人をもてなすのが本当に上手だということです。特別なディナーを作ってくれるわけでもないのに歓迎の気持ちは十分に伝わってきます。

(U.Mさん)

### 2007年訪問団団長 J.パーピーさんのスピーチ

とても快適で居心地の良い思いをさせていただきました。喜びや幸せを分かち合い一緒に笑い合いました。訪問団の一人一人が新しい友人を得ることも出来ました。(略)文化の違いや個人個人の違いはあっても、人間はみな似たようなものなのです。今日は送別の会となっておりますが、決して「別れ」ではありません。また会う日までお互い元気でいきましょう。



# 受け入れや訪問の内容を紹介します

## 2003年 第10回 訪問団受入 10/29▶11/6

こんな計画で、日本を体験していただきました。

- 01 成田ー県活泊
- 02 長龍寺幼稚園・葛蒲高校 歓迎夕食会・ホームステイ①
- 03 10周年記念植樹・川越・ホームステイ②
- 04 ホストファミリーと自由行動・ホームステイ③
- 05 ホストファミリーと自由行動・ホームステイ④
- 06 産業祭参加・草津方面訪問 新田乃庄ほか見学・ホテル泊①
- 07 鎌原観音・鬼押し出し・白根山ほか見学・ホテル泊②
- 08 北斎館・善光寺ほか見学・ホームステイ⑤
- 09 お別れ会・葛蒲ー成田ーポートランド空港へ



2003年 産業祭に参加・餅つきを体験



2008年 歓迎会でハーモニカ演奏を



2008年 ホストの庭で夕焼けを見ながら夕食会

## 2008年 第15回 ローズバーク訪問 6/19▶6/27

こんな計画で、大自然を満喫し友情と理解を深めました。

- 01 葛蒲ー成田ーポートランド空港ーローズバーク・ホームステイ①
- 02 市内見学・15周年記念式典・歓迎夕食会・ホームステイ②
- 03 ホストファミリーと自由行動・ホームステイ③
- 04 ホストファミリーと自由行動・お別れ会・ホームステイ④
- 05 バス旅行 オレゴンコースト北部などの見学・ホテル泊①
- 06 アストリア市内見学・ホテル泊②
- 07 内陸部へ移動・ポートランド見学・ホテル泊③
- 08 ポートランド空港を出発
- 09 成田ー葛蒲

改めまして

## 中学生のホームステイ交流

### 1993年(平成5年)会報紙No.1より 抜粋引用

日程は日本の伝統文化、芸術(略)及び葛蒲町の紹介等に重点を置いて計画。中学生同士の交流の機会や楽しい家庭生活にふれ、生活習慣を学ぶ機会となるようにしました。

受け入れ家庭の保護者から、「初めは言葉も通じないで不安でした。次第に慣れて家族みんなが楽しく、明るい雰囲気となり、別れるのが寂しくなりました。」と話されました。

### 2000年(平成12年)会報紙No.8より 抜粋引用

私の家が受け入れた子はリグスという子でした。慣れない日本でこの10日間ずっと元気でいてくれました。(略) そのうち自然に簡単な単語や身振り手振りで少しずつ気持ちを伝えられるようになりました。(略)

リグスが日本の文化や習慣を明るく積極的に受け入れてくれたように、もし、私がアメリカに行くようなことがあったら、私もアメリカの文化や日本と違うところを積極的に体験してみたいです。

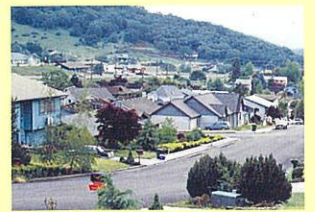
葛蒲南中2年 M.Sさん

改めまして

## ローズバーク市はこんな街

ローズバーク市はオレゴン州南西部に位置し、緯度では北海道札幌市にあたります。気候は穏やかで、あまり雪は降りません。オレゴン州最大の都市ポートランドから南へ280kmのところの位置する大変美しい街です。

市の総面積は約27km<sup>2</sup>、(旧葛蒲町とほぼ同じ) 標高は約140mです。市内にはサウス・アンプクア川が蛇行しながら流れており、市街北西を流れるノース・アンプクア川と合流し太平洋に注いでいます。



閑静な住宅街

人口は2019年現在約23,500人、日本との時差はマイナス17時間です。おもな産業はブドウなどの農業・ワイン製造・木材や木製品の製造です。

市内のダグラス郡博物館、ローズバーク市公園、ダウンタウンの住宅街や、クレーターレイク国立公園、ダイヤモンドレイクなど観光地にも恵まれています。

## 編集後記

今回はこれまでの会報紙からのアーカイブとなりました。改めて、「友情と理解」に基づいたきめ細やかな交流の積み重ねを実感しました。その一つに旧葛蒲高校で渡された「無事帰る」の手作りカエルのマスコットがあります。今でも、ローズバークの方が大切にされています。

2022年には交流再開を予定しております。皆様の参加をお待ちしています。

連絡先/久喜市・ローズバーク協会 編集責任者 山田銀子・今村暢子